

堺

西本願寺堺別院

西本願寺堺別院は、足利義氏の第四子祐氏が、本願寺覚如（親鸞の曾孫）に帰依して、寺を創建したのがその初めと伝えられている。後、第五世檜木屋道顕が、文明2年（1470）堂宇を再建し蓬如を招き落慶の導師とした。また同8年には境内に信証院という一字を営み、蓮如がここに居住した。よって、現在も信証院と呼んでいる。明治4年から明治14年まで、堺県庁がここにおかれており、明治10年に、



落ち着いた佇まいの西本願寺堺別院

所在地：堺市堺区神明町東3丁1-10
最寄駅：阪堺線 神明町駅下車 徒歩約5分
無休 拝観時間：9：00～16：00
拝観料：無料
TEL：072-232-4417

明治天皇が堺県へこられた時に、ここへも立ちよられた。本堂は文政8年（1825）に再建されたものであるが、堺市に現存する木造建築としては最大のものである。与謝野鉄幹の父が西本願寺の院内僧であった関係で、戦後晶子の歌碑がたてられた。歌碑は晶子の筆跡で、「劫初より作りいとなむ殿堂にわれも黄金の釘ひとつ打つ」ときざまれてある。大阪府の天然記念物指定にされている、「西本願寺堺別院のいちよう」も、境内にあり、何か、落ち着いた気持ちにさせてもらえる。（七堂元敏）